

## 迎春



## 北海道教務支庁第100回記念祭 立教183年 (令和2年) 9月6日

# 北海道教務支庁 教区報

第566号

発行所

天理教北海道教務支庁  
札幌市中央区南8条西1丁目  
電話 011(561)-1148  
FAX 011(561)-1180  
E-mail kyosho-hk@vega.ocn.ne.jp

印刷  
三浦印刷株式会社

第100回教務支庁記念祭の  
立教183年の新春を 心よりお慶び申し上げます。  
意義深き年を迎え  
教区長 西垣定洋



昨年(令和元)は、お道の御用におつとめ下され誠に「ご苦労様」でした。今年も心明るく、教祖よりお教えいただいた御教えを第一に勇んでつとめさせていただきます。

本年は、北海道教区にとりまして、大事な一年を迎えました。それは第100回教区記念祭という大きな節目の旬であります。明治41年北海道教会組合事務所が設置され、その

後大正7年、現在地に移転、二代真柱様のお入り込みを頂戴し、大正10年には、親心にお応えさせて頂こうと第1回北海道教務支庁記念祭がつとめられ、今年数えて百年という意義深い記念祭をつとめる時であります。この旬に巡り合わせていただける事は、誠にありがたい事でありませう。初代の人々の信仰を味わわせていただけるこの年に、私達の信仰の元一日を今一度思い起こし、道の将来に向け今こそ奮起し、次なる一歩を踏み出しましょう。

組事務所が設置され、その

■記念祭の始まりは、大正7年8月、現在地に新庁舎が完成した開庁式に、おちばから、若き14歳の二代真柱様、御母堂たまへ様の御一行が、お入り込み下さった。おちばから遠く、上級からも離れ、自然も厳しい北海道の教友にとつて、それは大きく、深く、例えようのない喜びであった。札幌駅で出迎えた教友の数は千二百名に上り、黒山の人だかりという出迎えは、いかに大きな喜びであったか察せるものである。

翌年大正8年9月7日、新庁舎落成奉告祭執

行その2年後の大正10年9月7日、二代真柱様御一行がお入り込み下さり、道内各地を御巡行下された喜びと、新庁舎完成の喜びの日を記念して「第100回北海道教務支庁記念祭」が執り行われた。道庁にもその日の記録が残り、参拝者は30名以上である。ちなみに、大正7年当時の北海道の教会数は、約180か所。当時の熱意や真実の程は比べようもないが、記念祭は、大正、昭和、平成、令和と4つの年号をまたいで毎年執行され、今年100回目の記念祭を迎える。

## 春の学生おちばがえり 一次代を担うようぼくへー

立教183年 (令和2年)  
3月28日・27日  
前夜祭

- ◇27日(金)午後7時  
前夜祭 (東西水プール前広場)
- ◇28日(土)午前10時  
式典 (本部中庭)  
式典後 直属アワー

## 第百回教区記念祭に向かい 一手一つの勇み心で

総務部長 矢島建身



令和2年の新しい月日をいただきました。現在のところ、この宇宙に生命の存在が確認されているのは、地球だけ！、その地球に80万種以上の生物が存在しているらしい。太陽の光、空気、水が互いに作用し合って生物溢れる惑星になっている、まさに、親神様の火、水、風のこ

守護あればこそである。「ハビタブルゾーン」という言葉が最近目に留まる。太陽と地球、生命が生きられる絶妙な位置関係にあるということだぞうだ。

私達は常日頃「おちばがえり」をお教え頂いている。その「ちば」と自分の距離を縮める努力が疎かになっていないだろうか。特にその必要性を近年強く感じられる。先人よりお教え頂くように、お道があつて自分であり、「ちば」があつて我が教

会であることを忘れてはならない。昨年の流行語大賞は、「ワン・チーム」が選ばれた。意味合いは、異なるけれど、私達は「一手一つ」の言葉をお教えられる。本年9月6日、真柱様ご臨席を戴く第百回記念祭に道内一圓教友が「一手一つ」に喜び心、勇み心、扶け合いの心を持って参加いただきたいと切に希望します。

## おたすけ心をもって

教務部長 大野成一



4月に新たな体制でスタートした昨年は、教務部として事情願書の視察見直しをいたしました。また、教区おちば事務所では、毎月25日には願書の受付を開始すると共に法人願書の相談も始めさせていただきました。さらに、27日には、任命お呼び後の承認書をお渡しする対応と、視察時にお知らせしました必要な書類、印鑑等を持参いただければ、所轄庁及び登記申請作成のお手伝いもさせていただきます。

ます。どうか、教区管内の皆様方には、大いにご利用下さい。さらに、本年は、「教務研修会」を開催予定です。各支部の教務部長さんは、もちろん、直属において教務を担当している方などがご参加下さり、よりよい北海道教区内での教務という御用が構築できることを期待しております。

単なる事務処理に終わることなく、そこに、おたすけの心を持って教務部員一同が事に当たらせていただきますので、令和



栃木県にて

2年目の年も、教務の上に、大きな御理解と御協力をお願いいたします。

## 関心、感動、感謝の心を強くして

布教部長 美田伸一

昨年には布教活動の上にご丹精・御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。明けて、本年も変わらぬお力添えを頂きますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

私達、道の信仰者として、この御教えが最後の教えであることを自覚し、身に治めなければなりません。

親神様は人間が陽気ぐらしをする姿を望まれて、この世界人

## 有事に備えた訓練と研修の成果

災救隊隊長 奥村尚人

昨年は秋田での東北・北海道ブロック訓練、おちば教区事務所での隊長会議と新たな研修の機会がありました。特に近年は各地域における災害ボランティア組織の連携会議に出席し、有事における役割と連携が緊密となつて来ました。そうした中昨

間をお創り下さいました。私共が人さまと共に、陽気ぐらしの世界に向かうためには、たすけあいが大切です。心の持ち方へのえに、関心・感動・感謝の心を強くしてこの道を通らせて頂きたいものです。

地域活動の重要性を鑑みて、教會長を始め、ようほくが一層勇み立ち、共に相携えながら、たすけあい・励まし合いながら、目的に向かつて通らせて頂けるよう、本年も従来の活動はもとより、さらなる活動の充実を目指して部活動を推し進めてまいります。

本年も布教部活動の上に、御尽力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

年も多くの災害が全国で発生し教区隊として災害出動にも至りましたが、正に有事に備えた訓練や研修の甲斐があつたと強く感じています。訓練、研修、会議をこなすのではなく、人と人の心を通わす熱意が、現場でたたすけあいとなることも確信致しております。本年も地域ひのきしん活動の推進と実践に励ましましょう！(写真は栃木と福島に出動した北海道教区隊)

多岐にわたるおたすけ  
につながる福祉活動  
福祉厚生部長 関野 保



昨年中は福祉厚生部の上にて過大な御尽力を賜りありがとうございました。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

本部の社会福祉課では、幅広い障害支援の活動をするため三布連の活動に加え、発達障害・依存症等の精神障害者も網羅し、障害者福祉協議会が発足されました。北海道教区福祉厚生部では、点訳講習・手話研修会、雅楽講習会を月一度、教務支庁で開催させて頂いております。

今年度は、保護司研修会、来年は民生児童委員研修会、再来年は教誨師研修会を予定しております。受刑者や、保護観察下にある方々に寄り添って更生して頂く事が大きなおたすけに繋がると思っております。更に

「よふほく家庭に もれなく『天理時報』を」  
「手配りひのきしんで、教友の絆を強めよう」

は、自立支援ホーム、少年保護観察下の少年の受け入れ委託者の協力を推進しております。里親連盟におきましては年一回の研修会を通して教区内で60件の越える里親が「人の子を預かって育ててやる程、大きなすけはないです」という教祖のお言葉を励みに活動して下さいます。「北海道に追い付け追い越せ」と励んでいる教区もあると聞きます。

ひのきしんスクールでは依存症の研修会をさせて頂きました。今年度は全国で61万人近くもいるという中高年の引きこもりについて研修を重ねて、おたすけの手がかりになればと思っております。

献血に付きましては一層の協力を頂きたく、各会と力を合わせ進めたいとおもっております。こうした活動を振り返りますと、福祉厚生部の活動そのものが、おたすけに繋がっていると再認識いたします。様々な課題に研修を重ね、これからのおたすけに欠かせない専門的な知識

を身に付けつつも知識のみに走るのではなく、いかに教祖のお言葉一つ一つに照らし合わせる事ができるか、それには自身の信仰をしっかりと根を張ら、中々実らないおたすけ道の中、中々に喜べるか。「尽した理は生涯末代である。(中略) たのうせい、これ前生いんねんの懺悔という」このおさしづを心の糧に襟を正し、皆様のお力を借りて、今年も一年活動して参ります。

天理時報の更なる活用を  
文化広報部長 加地道喜

「天理時報」に關しまして、一昨年五月には「支部手配り責任者研修会」、昨年七月には「手配り実務研修会」並びに「新任支部社長研修会」、また、九月七日の教区記念祭に併せて「天理時報」普及推進大会」を開催させて頂きました。

こうした中でも、現在「昨年の11/10号」で申しますと「天理時報」の発行部数は10万1千部で、続いて漸減傾向にあります。

また、北海道教区では、配布以外「天理時報」を取っていない教会は、27ヶ所を数え、約3



福島県にて

刺となりませう。それぞれ事情はありましようが、「よふほくの機関誌」である「天理時報」を、まず教会長自らが熟読し、丹精の道具としてご利用頂くことを切にお願いする次第です。

「魂にお帰り頂く」  
信念をもって

輸送部長 笹田道継

本年は時代が移り変わる姿を直に体験できる年となるのではないかと思います。オリンピッククイヤーであり新しい天皇が即位されて令和が本格的に始まり通信技術は飛躍的進化を遂げるでしょう。

翻ってこの道を行く信仰者として考えてみると、この時代に



福島県にて

翻弄されずに人間のあるべき姿を提示していかねばならないという試練に立たされていと感じます。これは先人とは違う道の伝道の困難さだと思いが、最後の砦は人間であるという事は変わらないという実感があります。それは例えば高度な技術を用いて建設された原子炉が機能不全に陥った時、自分の命を賭して戦った人間が最悪の事態を回避しようとして、科学の進化や技術の進歩だけが人間



まいりたいと思います。

育つ努力をしながら連携を取り合い活動できるようなつとめて委員会がお互いにたすけあい、共に育つ努力をしながら連携を取り合い活動できるようなつとめてまいりたいと思います。

### 支部との連携を

#### 取りながら

育成部長 高橋太志

の未来を切り拓くものではないからです。私は初めにこの世に絶望している人、次にこの世界を動かしている指導者や経済人、科学者こそ親神様の教えを知って「たんにく」とな事にてもこのよふわ 神のからだやしやんしてみよ」(おふでさき三号 40) という言葉に触れ、「せいかいぢういちれつわみなきよたいややたにんとゆうわさらにないぞや」(おふでさき十三号 43) という証拠に据えさけている「かんろだい」を目の当たりにして頂きたいと願うばかりです。

す。そのためには輸送という手段が必要ですよ。安心、安全、快適な移動があれば「おちば」の素晴らしいあはれにも増すでしょう。あるCMに「場所に関するだ」というのがありますが、我々輸送部も「人を運んでいるんじゃない、魂にお帰り頂くんだ」という信念で今年一年、いやこれからもずっと歩んでいきたいと思っておりますので、輸送体制に関するご意見を頂戴し、皆様のご要望に応えられる輸送部を目指してゆきますので、本年

もどうぞよろしくお願ひ致します。

■今年も閑空おちば間のバスを、4月の教祖誕生祭と、10月の秋季大祭に計画しております。

要項が決まりましたら、発表しますのごとうぞうご利用下さい。

〔教区輸送部〕

集しております。

「基礎講座」でございますが、日程などは教区報や教区のホームページをご参考にしていただければと思います。なお、会場は、教務支庁での開催、また各市町村での開催となりますのでご確認のうえ、縦の伝道・横の布教にご活用下さいませようお願い申し上げます。

今年、各支部の育成部あるいは育成の担当者と人材育成のうえで共に連携を取れるよう努力してまいりますので、本年もよろしくお願ひ致します。

## カレーライスの法則

### 基礎講座事務局長 藤野充普

天理教基礎講座は教えの核心である「かしも・かりもの」を主題に人としての本来の生き方を学ぶ講座です。

「かしも(＝十全の守護)」の世界に「かりもの(＝心の自由)」の世界が融合して、「陽気ぐらし(＝たすけ一條)」の世界に暮らす方法を筋道をたてて分かりやすく教えてくれる講座です。

私たちの暮らしの中で、さまざまな物事が成立する際に基本となる考え方(教理)は、判断や行動の拠りどころ(根拠や安心)となるはずですが、本講座を「カレーライス」に例えさせていただきます。食材や調理器具があっても娘は一人で料理を作ることができません。そこでお母さんが説明しながら用法と用量を順序よく一緒に作ることで、次は一人で作ることができるよう。そして作った「カレーライス」をお父さんと一緒に美味しく召し上がります。

食材や調理器具は「かしも」

です。作り方やレシピは「かりもの」です。そして「4つ分のカレーライス」が陽気ぐらしなのです。今年も教務支庁会場をはじめ、地方会場も開催いたします。ぜひとも本講座へとお誘いくださいませようお願い申し上げます。

#### 北海道会場受講者の声

##### ●50代の方より

「講話、ビデオの所々で、「そうですね。」と思い、何故か涙が出てきました。まだ先に進みたい。12月26日、初めておちばに帰ります。」

##### ●20代 女性の方より

「自分もおちばに帰りたいと思つた。行つて、自分自身で感じてみたいと思つた。」

##### ●50代 女性の方より

「別席の前に、こういう講座を聴いていたら、もつとすんなり心に入ると思いました。」

##### ●40代 女性 未信仰の方より

「別席、おさづけ、用木など、天理教にとっては日常の言葉でない言葉が解りやすく説明されていた点が嬉しかった」

# 婦人会創立110周年記念

## 第102回総会に婦人会員が誘い合わせておちばへ帰らせて頂きましたよっ。

ホップ・ステップ・ジャンプで創立110周年記念祭に

婦人会 山本亨子

日々は婦人会活動の上に御真実、御協力賜りまして誠に有難うございます。今年も、4月19日に婦人会創立110周年記念、第102回総会がおちばにて開催されます。

北海道からも大勢の参加のご守護を願ひ、ホップ：委員長部長の成人として、婦人会長様より、元を知る事の大切さについて直々にお言葉を頂戴し、ステップ：会員決起の集い、女子青年大会、を通して、丹精を促し下され、ジャンプ：として、飛躍の年を迎え、本年も成人目標活動方針に向かって、歩みを喜び心で勤めてまいりたいと思ひます。どうぞ本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

しらくき会委員長 境 真理

昨年11月3日には第29回女子

青年大会が開催され、北海道から60名程、婦人会の先生方も合せて90名以上の方がご集合下さり、各支部・教会のお声がけ誠に有難うございました。

おかげさまで前日のよろこびフェスティバルでは「じゃがちーガレット」を販売し、収入が完売することができました。また、ステージショーの「よろこびコレクション」では、北海道

教会の良さをアピール出来ました。昨年、各会の皆様のお力添えにより、大会を中心とした活動ができました。

今後は女子青年大会で繋がった仲間と共に北海道でも活動の輪を広げ、お道の教えを学び続けて行きたいです。

活動予定は「こかん様につづく会」を今年もさせて頂きたいと思ひます。

ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

## 教区学生会

春の学生おちばがえりに多くの友と

委員長 高橋京士

北海道教区学生会は、昨年多くの行事を開催し、道に繋がる学生と親睦を深めてきました。現在は「春の学生おちば帰り」に向け、北海道とおちば管内の学生双方で力を合わせて動員と準備に取り掛かっています。

今年も元氣いっぱい活動していきますので、よろしくお願ひします！

## 《おつとめ総会報告》

昨年になりましたが、11月16日・17日の日程で、テーマ「感謝×(かける)お願ひ」を掲げて開催。前日から、「学生会への感謝とお願ひ」をそれぞれ考えてもらい、そして17日のおつとめ総会へ。学生は皆おつとめ着を着て、勇んできました。

参加人数 24名



### 世界たすけへの挑戦は徳分を活かす事から

**青年会委員長 藤田大和**  
 あけましておめでとうござい  
 ます。昨年は、各支部の委員長  
 様をはじめ、会員様方におかれ  
 ましては、積極的に支部活動を  
 進めて下さり誠に有難うござい  
 ました。更には教区育成行事の  
 Y Yフェスにも大きなお力を頂  
 き、常任委員一同心より御礼申  
 上げます。本年も私達北海道  
 教区青年会は、本会の基本方針  
 「世界たすけへの挑戦」を受  
 け、自分出来るおたすけ、に  
 おいがけに実動することを目指  
 します。

### おつとめ総会を 各支部・ブロックで 少年会団長 久米田忠彦

一人の青年会員が自分の徳分を  
 見つけ、それを活かせる一年に  
 なる事を願い、助け合って行き  
 たいと思いますので、どうぞよ  
 ろしくお願い致します。

新年あけましておめでとうござ  
 います。  
 昨年中は教区少年会活動にご  
 尽力、ご丹誠とお力添えいただ  
 きました。



### ワイワイ・フェスにご協力ありがとうございました

きまして誠にありがとうございました。  
 お陰さまで子供たちが  
 きらんと、神様を見つめ進んで  
 います。

本年は、より神様にお喜び頂  
 けるおつとめ総会を各支部、又  
 ブロックで出来ればと話し合い  
 を進めていきたいと考えていま  
 す。又、本年よりこともおちば  
 がえりの日数の変更、内容の見  
 直しもあります。担当者一同心  
 を一つに自らが真っ直ぐ親神  
 様、教祖にお喜び頂けるよう勤  
 めさせていただきます。  
 本年も何卒お力添えをお願い  
 します。

### 支部活動報告

### おつとめ総会を開催

**余市支部**（森萌支部長）では、11  
 月24日、積丹分教会に於いてお  
 つとめ総会（少年会員も含め  
 て、55名）を開催した。9時半  
 より、三殿参拝、4交代で、す  
 わりづとめ（よろづよ八首、少  
 年会・学生会員）12下りをつと  
 めた。続いて式典の部では、教



区長祝辞、支部長より各部各会  
 の活動報告があり、記念講話と  
 して、馬場亮（余市町布教所  
 長）が「私の思うところ」と題  
 して自ら営んできた「トモ」や  
 ビーマンなど栽培する農園を通  
 してまた、生まれてから今日に  
 いたるまでの歩みからお道の教  
 えをもとに話した。

続いて直会の部では、弁当や  
 飲み物などを用意していただき  
 中、会場入り口にプロジェクタ  
 ー、大きな幕が用意されて、そ  
 こに前日23日余市町文化発表会  
 に出演した「余市雅楽会（支部  
 内外関係者）」が越天楽他、太  
 鼓などの打楽器、琵琶、箏によ  
 る装束での演奏を映像で紹介し、ま  
 たカラオケにも活用して大画面  
 として素晴らしい音響のもと老  
 若男女問わず歌い手が次から次  
 へと時には連続で、切れ目なく  
 歌うなど近年にないくらい盛り  
 上がる後、事前に配布した抽選  
 番号券に願いを込めての初とな  
 る大抽選会が行われた。まず各  
 支部内の支部長をはじめ支部役  
 職、各部各会の代表が、それぞ  
 れ前に出て抽選箱から番号が振  
 られたピンポン玉を引き上げ、当  
 選者に豪華品物（ゆめびりか  
 米、リンゴ1箱、馬場農園特製



トマトジュース等々)を手渡すもので、番号が出るたび大歓声があり会場が再び盛り上がりつた。また少年会・学生会・女子青年・青年会員などによる「パプリカ」の曲が映像とともにダンスで披露され、最後には、ヨガの紹介実践をするなど盛りだくさんの総会で終始笑いのたえない中、森支部長の万歳三唱で午後三時ころ散会した。

支部社友 中田 淳

### よふぼく成人講座開催

札幌白豊支部(支部長山田幸雄)は11月30日、厚別区にある天理教札幌分教会を会場によふぼく成人講座を開催し、28名の受講があった。当支部は毎年同講座を開催し支部管内のよふぼくの成人への歩みを支援している。今回は赤羽誠氏(天理教養樹分教会長)を講師に迎え「さあ、にをいがけ」をテーマに開催した。笹田同布教部長は開催の案内を時報購読者へ約400余通発送し、また天理時報手配り該当者へはリーフレットを同配りして、広くよふぼくへ案内をした結果、当日受講された方の大半が所属教会が遠方の方々であ

り、受講者からも「はがきの案内を頼りに受講しました。教会が遠く、地元で行事や活動に参加できることはとても有難い



す」との声もありました。地域活動が信仰する方々の拠りどころとなるようこれからも様々な活動を展開して行きたいと思う。

私が依頼を受けて、ある所へ講演に出かけた時の事であった。その会場で、見るからに偉い感じの人がおられたが、その人が私を見るなり「一言で云うならば、キリスト教では愛を説き、仏教では慈悲を説きます。天理教では何と説くのでしょうか」と、私に問い質してこられた。勿論お道の教えの中には愛の心も慈悲の心も内包されている。私はずいぶん乱暴な決めつけかたをされるので内心返事をすべきかどうか迷った。が、すぐに「はい天理教では親心を説きます」と答えた。

親神様は私達の親として絶大な親心をかけて守護下されているが、私達にも他人に対して親心を使える人になるよう望まれているのである。さて親心とは、自分への見返りを求めず、ただ一筋に子供の成長や幸福などを願って一方的につきす心のことであろう。親心は対等の立場で意識しあうものではない。では、他人との間柄では親心を使うとはどうゆうことであろうか。

その基本は、私たちお互いは親神様の子供として皆兄弟姉妹

である意識を持ち、いがみあうことなく仲よくたすけあっているのが本来の人間の使命だからである。

ではたすけあうとはどんな心構えなのだろうか。それは、たすけたら、たすけられたりと云うが、お返しを求めたりする計算が働くのであれば絶対に本来のたすけあいを成就出来ないの

木岡 昭

教理随想

親心

である。まず、たすけ心のある人から積極的に働きかける以外たすけあいは始まらないのである。そしてこの働きかけこそ、その人自身が本当にたすけていく種をやつてもらうのである。

何をやつてもうまくいかない青年が、世をはかなんで自滅しようとした時ある教会の青年と

してつとめることになった。最初は何かにつけて自分勝手な考えや振る舞いをするばかりであったが、年を重ねていくうちにこの青年はだんだんと人の事を考えたり、世話をするような人に変わってきた。ところが同時に、青年の心は明るく勇んでいくようになったのであった。これこそ相手に見返りを求めず心をつくす親心が芽生えた事による賜である。結果として青年の心は反対にたすけられたのである。

親神様の目指される「神も共に楽しめる陽気ぐらし」は、私達が親心を少しでも多く持てるように努力するところにある。しかしこの心は一朝一夕に出来るものではない。親心は頭がよくても出来ないし、自分の生活の中にも心が閉じこもれば絶対に培えないものだ。

それは生命の親の思いに添って努力する以外ない。これが本来の信仰の姿であろう。この世に都合のよいたすかりはない。この世の一切は、自分が出した真実の姿しか与わらないのである。

けいじばん

◎立教183年 学生生徒修養会

【高校卒業生コース】

期間 令和2年3月10日～12日  
対象者 令和元年度高校卒業生予定者

定者

◎卒業後の進路は問いません

◎天理管内高校卒業生予定者も受講可

募集人員 500名

受講御供 5千円

申込方法 受講願書1通 返信用封筒1枚(84円切手貼付) 直属教会長を経て学担任事務所に申し込み

申込期間 令和元年11月26日～令和2年1月31日

※本人の意思確認の上お申込み下さい

※願書は学担任事務局、直属学担任事務所に有りますが、ウェブサイトでダウンロードも可 <https://searlinkyoor.jp>

◎法律に関わる諸問題で「相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁内の書記(渡部)までご連絡下さい。」

◎手話・点字講習会(一月は休)

毎月1日 教務支庁にて午後6時から8時まで行います。

※雅楽練習会も併行して開催いたします。(三布連)

◎毎月26日に本月度次祭連拜式をおこなっております。

計報

・三浦敏恵様 6月11日出直 94歳

梅和分教会前会長 (天塚支部)

の場哲平様 11月19日出直 64歳

温根湯分教会長 (北見支部)

・福西ヨリ様 11月18日出直 93歳

北哲分教会前会長夫人 (十勝支部)

・岩倉光博様 12月17日出直 83歳

樽前分教会前会長 樽浜分教会長 (宗谷支部)

北海道教務支庁日誌抄

(11月19日・12月19日)

11月24日 札幌四支部 教務講習

25日 教区長会議

洞部副局長

おちば表敬訪問

26日 本月度次祭連拜

29日 青年会下半期

委員長会議

12月1日 たすけ推進会議

支部長会議

予算会議

4日 任命願書発送

5日 事情願書発送

19日 教区報集会議

2月の教区報は休刊しますのでご了承下さい。